大阪プロバスクラブ

会報　第397号
2024年10月9日発行
Monthly Bulletin of
The Probus Club of Osaka

例会場：ホテルモントレ大阪　06-6458-7111
例会日：2022 年 7 月より毎月第 2 水曜日 12 時～14 時
○創立 2001（平成 13）年 7 月 9 日創立記念式 7 月 16 日
○スポンサークラブ：箕面千里中央ロータリークラブ
○友好クラブ：箕面ロータリークラブ
○会長：山下恵司　○幹事：川端崇且 Tel：090-2702-7212
○事務局：（幹事宅）〒562-0044 箕面市半町 2-5-23
○会報担当：西宮富夫　pxi06603@nifty.com
○大阪プロバスクラブ会報：http://osakapurob.exblog.jp/
○全日本プロバス協議会：https://www.all-japan-probus.com/
（R6 年 8 月の第 11 回総会で決定された新体制）
会長 馬場康博、幹事長 中田雅昭、会計 佐々木浩一
○日本のプロバスクラブ・関西 Blog 版：
http://probuscent.exblog.jp/

R6 年 9 月上旬～R6 年 10 月上旬までの更新分（順不同）

クラブ	会報	記事一部
旭川	会報 230 号、号外	230 号：8 月 2 日移動例会。号外：全日本新年度役員（会長馬場康博、幹事長中田雅昭、会計佐々木浩一、他）、全国から 15 クラブ 135 名参加、他。
東京八王子	プロバスだより第 345 号	卓話「1945 年 8 月を振り返って」塩澤迪夫、下山邦夫、杉山友一、「私の健康管理」立川冨美代、浅井文夫、全日本プロバス協議会第 11 回総会・五所川原大会と青森の旅」、読書の記録（丸山恭）、他
東京多摩	会報 113 号	「真夏の高校野球観戦」小林務会長、令和 6 年度新理事・監査、全日本プロバス協議会第 11 回総会・五所川原大会レポート、龍飛崎レポート・下北半島を訪ねて、他
大阪	会報第 396 号	ビアパーティ（演奏：吉岡ユリ &Fredy Flourez、他）、五所川原旅行 4 名参加（全日本プロバス協議会第 11 回総会・五所川原大会、恐山、浅虫温泉、太宰治疎開の家、竜飛岬）、他
北九州	つながり第 218 号	7 月定時総会・例会報告、小倉駅周辺クリーンキャンペーン参加（柴村）、同好会報告（写友会、茶道クラブ、日本酒の会、食美会、歌をうたう会）、歴史文学講座”同好会会員急募！”他

今回　第 398 回 移動例会　2024 年 10 月 9 日（水）
会場　淀屋橋 odona「アトリエハナダ」12：00～14：00

●大阪プロバスの歌（作詞：渡辺孟　補詩：田村徳郎）

① プロバスクラブへ集まろう　気の合う仲間とお昼時
元気に歌おう会の歌　第二の人生また楽し
② プロバスクラブに集まって　優しく気軽に話そうよ
見せたい自慢の得意技　遊びのプランもまた楽し
③ プロバスクラブに集まれば　高まる奉仕の心意気
世界に広がる和の願い　明日も愉快に生き抜こう

●『村まつり』（文部省唱歌）
村の鎮守（ちんじゅ）の　神様の
今日はめでたい　御祭日（おまつりび）
ドンドンヒャララ　ドンヒャララ
ドンドンヒャララ　ドンヒャララ
朝から聞こえる　笛太鼓

前回　第 397 回　通常例会　2024 年 9 月 11 日（水）
会場：ホテルモントレ大阪　12：00～14:00

◎通常例会
○司会進行：永田慎一会員
○ソング：吉川栄子会員　**●『虫の声』**
●食事タイム
○乾杯：山下恵司会長
ワイン名：エスティバル ドメーヌ・ド・ロスタル
ESTIBALS DOMAINE DE L’OSTAL

ワインラベル

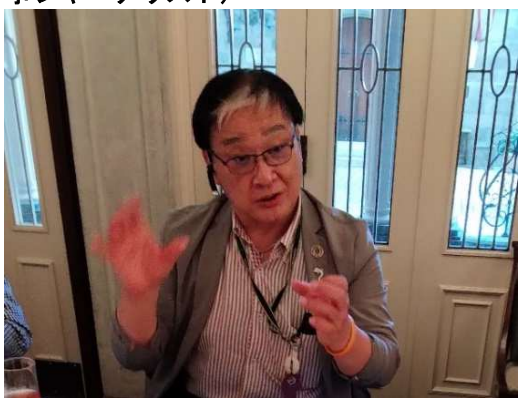
ワイナリー：ドメーヌ・ド・ロスタル

（文引用元：エノテカ online 記事「ボルドーの名門シャトー・ランシュ・バージュが南仏で手掛けるワイナリー」）
生産者：ドメーヌ・ド・ロスタルは、メドック格付け第五級、ランシュ･バージュのオーナーファミリーが、ボルドーで培った技術を結集して手掛ける南フランスのワイナリー。こちらは、オック語で「夏」を意味する赤ワイン。
生産地：フランス　ラングドック・ルーション
畑はモンターニュ・ノワールの麓（中世の町カルカッソンヌと古代ローマ時代の港町ナルボンヌの中間地点に位置）に沿っており、ほとんどの畑は南向き。丘と谷からなる起伏に富んだ地形は、日中は非常に日照に恵まれ、夜間は涼しい風が尾根から吹き下ろすのが特徴です。

○山下恵司会長挨拶：本日は入会ご希望のゲストがご参加です、宜しくお願い致します。他。
○幹事報告：広報委員会より名刺配布しました。他
○親睦委員会：8 月ビアパーティは 35 名参加、御礼申し上げます。他。
○出席報告：出席委員長より参加 15 名（ゲスト菊川哲子様、畑山博史様 2 名）との報告。
○OH-BOX：担当委員長より 8 名 21,000 円との報告。
★山下恵司会員：ゲストようこそお越し。
★川端崇且会員：先月のビアパーティ参加ありがとうございました。
★伊丹谷五郎会員：欠席申し訳ないです。念願の”ねぶた祭”行けず残念です。
★西宮富夫会員：旭川プロバスクラブの号外に全国大会の記事があり、参加者 135 名、参加クラブ 15 クラブでしたとのこと。
★浅井良佑会員：代役を立てて申し訳ありません。

★永田愼一会員： あつさがきびしいので体調を崩さないように気を付けてください。
★野村尚子会員：先月のビアパーティとっても楽しかったです。浅山さんお疲れ様でした。ありがとうございました。
★浅山紀久子会員： 毎日暑い日が続いています。おすこやかにお過ごしでしたか？ビアパーティにはご参加下さりありがとうございました。
〇誕生月：（9 月）野村尚子会員（左）、山下恵司会長（中央）、（9 月）浅山紀久子会員（右）

◎卓話「大阪のこれからを考える」畑山博史氏（時事ジャーナリスト）



（会報担当より：時事ジャーナリスト畑山様には、浅井良佑会員のご紹介で卓話をしていただいたのですが、卓話は全体テーマが示す通り、広範囲にわたる話題で、流通 24 年問題、高齢化なども含む多岐にわたる内容でした。幸い畑山様から卓話用メモをいただきましたので、ページの関係でテーマを下記 2 点に絞り、関連資料を掲載し、記事としました。）

1. 大阪の”経高・政低”がまねいた現状

＜畑山様メモより＞
★大阪の経済：日生、住銀、松下、吉本、サントリーなど大阪企業任せ。政治・行政は二の次。1970 万博は財界、関空も財界に任す。
→→今やリードする財界企業が大阪にない。
★大阪の政治：府庁→自治省（今の総務省）、大阪市→市職労の丸投げで首長を出す。議員→自民世襲、旧社会は労組、既得権温存で新規参入許さず。
→→維新の創始者は閉塞感打破→地域の議員・首長から新規参入開始。
★万博・IR「夢洲」夢はあるのか？延伸慎重な京阪が賢明判断
★万博とカジノを取り巻く環境がコロナで一変。ネットで出来ることに興味なし。

＜卓話関連資料＞
★大阪発祥の大企業本社、殆ど東京へ
（以下、文：週刊現代（講談社）記事「大阪はかつて、東京をも上回る「日本一の街」だった…それがなぜ「衰退」へ向かったのか？ その意外なメカニズム」）

江戸時代に「天下の台所」と呼ばれた大阪は、多くの企業の創業の地でもある。たとえば、**住友商事、伊藤忠商事、丸紅、武田薬品工業、サントリー、日本生命、朝日新聞、パナソニック**などが大阪発祥だ（社名はすべて現在のもの。以下同）。
立命館大学教授で『大阪−都市の記憶を掘り起こす』の著者人文地理学者の加藤政洋氏が大阪の歴史を解説する。

「戦後の大阪では、多くの名経営者も活躍する。パナソニックの松下幸之助、シャープの早川徳次、ダイエーの中内功、サントリーの佐治敬三といった面々だ。しかし、徐々に状況が変わり始める。」（中略）
「新聞記事を読むと、’70 年の大阪万博の頃までは熱気があったことが伝わってきます。しかし、’70 年代以降に新幹線や高速道路などの交通網がそれまで以上に発達し、都市同士の結びつきが強くなると、東京が企業の本社機能を吸収するなど、東京一極集中が進みます。さらに、グローバル化のなかで工場は安い労働力を求めて海外に出て行き、大阪経済の地盤沈下が進みます」

だが、大阪は衰退にあらがうかのように、無謀とも思えるような開発に踏み出す。なにより象徴的なのが、大阪湾「ベイエリア」の開発である。「バブルの勢いもあってその一環として建設されたのが、アジア太平洋トレードセンター（ATC）や大阪ワールドトレードセンター（WTC）です。（中略）

ちょっと前まで日本一の街やったんや、東京には負けへんで−大阪財界や政治家の声が聞こえてきそうである。
（会報担当：上記の大阪発祥の企業の殆どが本社機能を東京に移している。住友商事、伊藤忠商事、丸紅、武田薬品工業、サントリー、パナソニックなどである。鉄道、電気、ガス関係は当然残っているが、「リードする財界企業は大阪にはない」。）

★現在の大阪は維新政治
〇＜公選大阪府知事＞（以下引用元：Wikipedia）

代	氏名	就任年	公認（支援）
1 代	赤間文三	昭和 22 年（1947）	自由党
2 代	佐藤義詮	昭和 34 年（1959）	自民党
3 代	黒田了一	昭和 46 年（1971）	（社共）
4 代	岸昌	昭和 54 年（1979）	（自治省）
5 代	中川和雄	平成 3 年（1991）	無所属
6 代	横山ノック	平成 7 年（1995）	無所属
7 代	太田房江	平成 12 年（2000）	（自公民社民）
8 代	橋下徹	平成 20 年（2008）	大阪維新の会
9 代	松井一郎	平成 23 年（2011）	大阪維新の会
10 代	吉村洋文	平成 31 年（2019）	大阪維新の会

〇＜公選大阪市長＞（以下引用元：Wikipedia）

代	氏名	就任年	公認（支援）
11 代	近藤博夫	昭和 22 年（1947）	日本社会党
12 代	中井光次	昭和 26 年（1956）	民主党
13 代	中馬馨	昭和 38 年（1956）	無所属
14 代	大島靖	昭和 45 年（1971）	無所属
15 代	西尾正也	昭和 62 年（1987）	無所属
16 代	磯村隆文	平成 7 年（1995）	無所属
17 代	關純一	平成 15 年（2003）	無所属

18 代	平松邦夫	平成 19 年（2007）	（民主、国民新、社民）
19 代	橋下徹	平成 23 年（2011）	大阪維新の会
20 代	吉村洋文	平成 27 年（2015）	大阪維新の会
21 代	松井一郎	平成 31 年（2019）	大阪維新の会
22 代	横山英幸	令和 5 年（2023）	大阪維新の会

※（11 代より公選）

（会報担当：大阪府知事、大阪市長の変遷を見ると、大阪府は自民系→民主系→維新へと変遷し、大阪市は政治的に無所属市長の時期が長い。現在は大阪維新の会が大阪府・大阪市ともに首長を任されている。万博・IR 計画を進める維新政治に期待。）

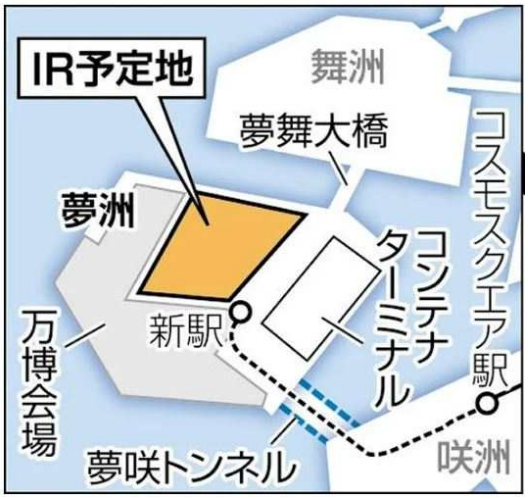
★万博と IR が大阪経済拡大のカギ

＜EXPO2025 会場＞

（画像引用元：EXPO 2025 大阪・関西万博公式 Web サイト）

＜IR 予定地＞

（画像引用元：読売新聞オンライン 2023 年 9 月 29 日）



○万博期間中の IR 工事継続決定

（以下、読売新聞オンライン 20240910 記事より引用）

大阪府と大阪市が推進するカジノを中核とした統合型リゾート（IR）の建設工事は騒音などの影響を減らすことで大阪・関西万博の期間中も継続できることになった。

○京阪 2030 年までの延伸断念

（以下、読売新聞オンライン 20240412 記事より引用）

京阪ホールディングス（ＨＤ）は京阪電鉄中之島線を大阪メトロと接続させる延伸構想について、２０３０年秋までの開業を断念することを明らかにした。カジノを中核とする統合型リゾート（ＩＲ）が大阪市の人工島「夢洲」に開業するまでの延伸を目指していたが、間に合わないことが確実となった。ＩＲが白紙撤回となる可能性が残されているためで、判断を先送りする。

（会報担当：大阪はバブル崩壊後不動産投資のリスクが高い経済状況が続いた。インバウンド需要で一息ついたが、ミナミや USJ などに加えて、万博・IR の成功が大阪経済の拡大にとって重要であるが、成功しなくても現状維持と考える。しかし、スマホで馬券を買ったりする多くの人達はカジノに興味ないのでは、というご意見は貴重でした。）

2.「関西の歴史・魅力」は内外に通じる

＜畑山様メモより＞
★大阪の魅力は京阪神 3 都が一直線で違う顔
★ミナミと USJ で集客
★観光立地は「+京都」で差別化が内外に通じる
★「何でも自前で」は無駄

＜卓話関連資料＞

★大阪の歴史（以下、Wikipedia より抜粋引用）

古代より瀬戸内海・大阪湾に面した立地から、住吉津や難波津などの港を持ち、**水の都**と称された。中世には、渡辺津や浄土真宗の本山であった石山本願寺（1496 年）が置かれ、寺内町として商工業が発展。近世初期には豊臣秀吉が大坂城（1583 年）を築城し、城下町が整備された。江戸時代には天領（1619 年）となり、経済・交通・金融・商業の中心地として発展。大坂は経済の中心地として**天下の台所**と称され、商業の町で豊かな町人文化（上方文化）を育んだ。明治期に入ると、東洋紡など繊維工業を中心とした工業都市へと発展し（→船場の繊維問屋街）、「**東洋のマンチェスター**」「煙の都」と称された。（中略）1925 年に第 2 次市域拡大を行い、この当時の繁栄を極めた大阪は**大大阪時代**と呼ばれた。

★大阪の魅力

現代では商都として、日本国内はもとよりアジアを中心に世界から訪問者が訪れる国際集客都市として、主に商業が繁栄。梅田・北新地を中心とした**キタ**や、難波・心斎橋を中心とした**ミナミ**といった日本屈指の繁華街を有している。

「戎橋」より見るグリコサイン付近

（画像引用元： GOOD LUCK TRIP 記事「戎橋」）

★京都の歴史（以下 Wikipedia より抜粋引用）

・京都は桓武天皇が 784 年の長岡京に続いて、794 年平安京に遷都したことに始まる千年の都である。（中略）

・鎌倉時代にも京都の朝廷は政治機能を発揮していたが、東国支配を強めていた鎌倉殿に 1185 年守護・地頭の設置を認め、鎌倉幕府が全国支配を強めたため、京都は相対的に経済都市としての性格を強めた。（中略）

・南朝が衰微して室町時代になると京には室町幕府が置かれたために政治都市として復活する一方で経済発展を遂げ、町衆と呼ばれる有力市民による自治の伝統が生まれた。（中略）

・戦国時代の端緒となる応仁の乱で市街、特に北側の大半が焼失し、荒廃。（中略）この後、織田信長、豊臣秀吉の保護と町衆の力により復興した。
・関ヶ原合戦後、1603 年 3 月 24 日（慶長 8 年 2 月 12 日）に徳川家康が伏見城にて征夷大将軍に任官される。
・江戸幕府が誕生すると政治の中枢は徐々に伏見から江戸に移ったにもかかわらず京都は国都であることに変わりはなく、（中略）以後京都は文・工芸の中心地として人口が 50 万人を超え、最大都市の江戸や天下の台所大坂に次ぐ都市として繁栄した。

★京都の魅力

京都は世界的な観光地である。米国の有力旅行誌の『トラベル＋レジャー』誌が行った読者の投票で順位づけをした「世界のベスト都市トップ 25　2021 年」によると、京都は世界で第 5 位にランクインした。

秋の清水寺（音羽山清水寺 HP より）

★神戸の歴史とハイカラ文化

（以下、文引用元：神戸のハイカラ文化　ＮＰＯ法人神戸グランドアンカー　理事長村上和子氏）

・神戸開港：神戸の都市としての発展は、1868 年 1 月 1 日（慶応３年 12 月 7 日）の開港を契機に近代化の第一歩を踏み出します。（中略）神戸がハイカラ文化のあるまちといわれるようになっていったのは、みなととそこに外国人たちが暮らした居留地があったことが大きな要因。

旧居留地 15 番館（画像引用元：神戸旧居留地レトロ建築より）

・洋菓子の街・神戸：「洋菓子のまち KOBE」のお話です。（中略）神戸市の広報番組を手がけている頃に（中略）私たち市民があたりまえのように口にしている神戸の洋菓子が、どこのまちよりも魅力的で、特徴的だということに気がついたのです。それから、（中略）とうとう「洋菓子天国 KOBE」という本まで出版するまでになりました。それがなんとベストセラーになり、出版まもなくして大丸神戸店の店長から、同タイトルの催しがやれないかと依頼までいただき、総合プロデューサーとして取り組みが本格化していきました。

★＜神戸・奈良＞は「+京都」が必要

○神戸：関西インバウンド「一人負け」の神戸

（文・画像とも：産経ニュース 2024.5.4 より引用）

神戸市のベイエリアで大型の集客施設の整備が進んでいる。神戸ポートタワーが 4 月にリニューアルオープンし、6 月には水族館「神戸須磨シーワールド」が開業。大型アリーナを中核とした新エリアの開業も来春。（中略）背景にあるのは、神戸を訪れる観光客の伸び悩みだ。観光庁の訪日外国人消費動向調査によると、令和 5 年に観光やレジャー目的で日本を訪問した外国人のうち、大阪府を訪れた人は 43.5%、京都府は 33.7%なのに対し、兵庫県は 6.3%にとどまる。同じ調査で平成 28 年以降、奈良県に追い越されており、兵庫県内の観光関係者は危機感を募らせる。

○奈良：「現在の奈良の観光は安い、浅い、狭い」

（文・画像とも：MBS ニュース 2024.5.18 より引用）

◆安い＝観光消費額が僅か：（奈良県の観光客は）コロナ前の 2019 年は全国 19 位（4500 万人）、インバウンド客に至っては全国トップクラスの 5 位（350 万人）。それにもかかわらず 1 人あたりの観光消費額 5308 円は全国平均の 9931 円に大きな開きがある。

◆浅い＝滞在時間が短い：奈良県で宿泊する客は非常に少ない、外国人訪問者数が全国 5 位に達した 2019 年も、外国人宿泊者となると全国 4 位に沈んでいる。

◆狭い＝奈良公園周辺ばかり：人流は年間通じて奈良公園エリアに集中。（中略）インバウンド客に限るとなんと 85%が奈良公園周辺だ。

（会報担当：大阪にとっては、ミナミと USJ に加えて、万博・IR が新しい集客施設になると効果が大きい。経済拡大が期待できる。一方、奈良・神戸は「+京都」の発想で集客を工夫すべき、「何でも自前で」は無駄、とのご意見だった。）

以上

次回　第 399 回 通常例会　2024 年 11 月 13 日（水）
会場：ホテルモントレ大阪　12：00～14:00